

白瀬南極探検隊記念館

自己評価報告書

〈令和元（2019）年度〉

目 次

1. 導入の経緯	p. 1
2. 自己評価の基本的な考え方	p. 1
3. 自己評価会議の実施状況	p. 2
4. 段階評価の基準	p. 2
5. 指標の種類	p. 2
6. 使命	p. 3
7. 目標	p. 3
8. ロジックモデル	p. 4
9. 総合評価	p. 5
10. 評価表	p. 6～ p. 12
11. 添付資料	p. 13～ p. 15

白瀬南極探検隊記念館 令和元（2019）年度 自己評価報告書

1. 導入の経緯

当館が自己評価の導入を図る発端は、平成 27 年 2 月に北海道大学大学院文学研究科歴史地域文化学専攻（当時）の大内須美子氏が実施した、「自己評価の現状に関する調査」のアンケートでした。

アンケート回答後平成 27 年 6 月に大内氏がアンケート結果を活用した修士論文「公立博物館の自己評価に関する研究 - 留萌市海のふるさと館の事例を中心に - 」を送付され、拝読させていただく中で、当館等における自己評価に関する導入の可能性を探ることとなりました。そして同時期に、大内氏がフィールドワークとして研究の協力館を募集していたことをこれ幸いに、当館も含めたにかほ市内にある 4 つの博物系施設を売り込むことに成功し、氏の協力を得て自己評価を導入する機会を得ることになりました。

様々な資料を確認する中で、特に自己評価に関して期待を持ったのが、客観的な視点、理論に基づいた分類や整理を行い評価していく中で、当館がどう変わっていくか、そして更に 4 つの類似施設が同じ目標や理論ものと共同作業をしてくことで生まれる、連携と意識改革の化学変化でした。

自己評価導入にあたって、遠く北海道から何度も足を運ばれ、懇切丁寧にご指導いただいた大内須美子氏に深く感謝するとともに、我々が氏の研究の一助となることを祈り、自己評価導入の成果を今後の館運営に反映させることができれば幸いです。

協力：北海道大学大学院 文学研究院

文化多様性論講座 博物館研究室 博士後期課程 大内須美子氏

2. 自己評価の基本的な考え方

優れた施設運営を行うためには、館がどのような目的をもつ施設であるか（使命）を明確にして、今後どのような方向に力を注ぐべきかについて実現可能な目標をたてて絞り込む必要があります。目標達成のための事業計画ごとの指標をつくり、実現に向けて事業を運営します。そして事業の実行後に自己評価をし、その分析結果をまた新しい計画に活かしてゆくという一連の自己評価のサイクルを運用してゆくことにより、事業の運営改善のための課題を明確化し、さらに地域に求められる施設運営が実現できます。

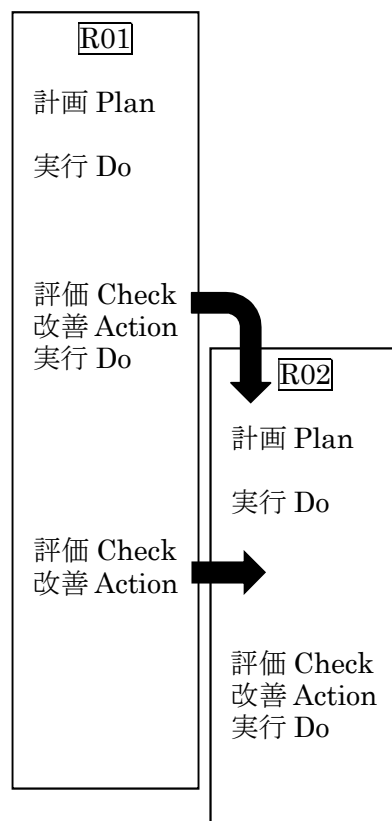
3. 年間のPDCAサイクル

平成 31／令和元(2019)年

- 1～3 月 R01 計画（素案）作成
- 4 月～ R01 事業執行
- 4～5 月 H30 実績評価指標の自己評価・R01 計画作成
- 9 月 市議会に H30 決算・事業を報告
- 10 月 R01 上半期中間評価➡改善点・今後の方策
H30 実績評価を公表（ホームページ）
- 11 月～ R02 度市予算案作成

令和 2(2020)年

- 1～3 月 R02 計画（素案）作成
- 4 月～ R02 年度事業執行
- 4～5 月 R01 実績評価指標の自己評価・R02 計画作成
- 6 月 R01 実績評価(案)を記念館運営審議会に報告
- 9 月 市議会に R01 決算・事業実績を報告
- 10 月 R02 上半期中間評価➡改善点・今後の方策
R01 実績評価を公表（ホームページ）



4. 段階評価の基準

A	優良 : 目標を超える成果をあげている。 内容が特に優れている。	100%以上
B	良好 : 目標に対し良好な成果をあげている。 内容に優れた点がみられる。	80～100%未満
C	適正 : 計画に即して目標を達成している。 内容が適正である。	60～80%未満
D	改善 : 目標が達成できていない点がある。 もしくは内容の改善が必要である。	30～60%未満
E	見直し : 目標がほとんど達成できていない。 抜本的な改善が必要であるか中止する。	30%未満

5. 指標の種類

P1	アウトプット指標①	目標値に対する実績の達成率で判断
P2	アウトプット指標②	アンケート結果「とても良かった+良かった」の合計で判断
C	アウトカム指標	アンケート・インタビュー・その他の調査等の総合判断

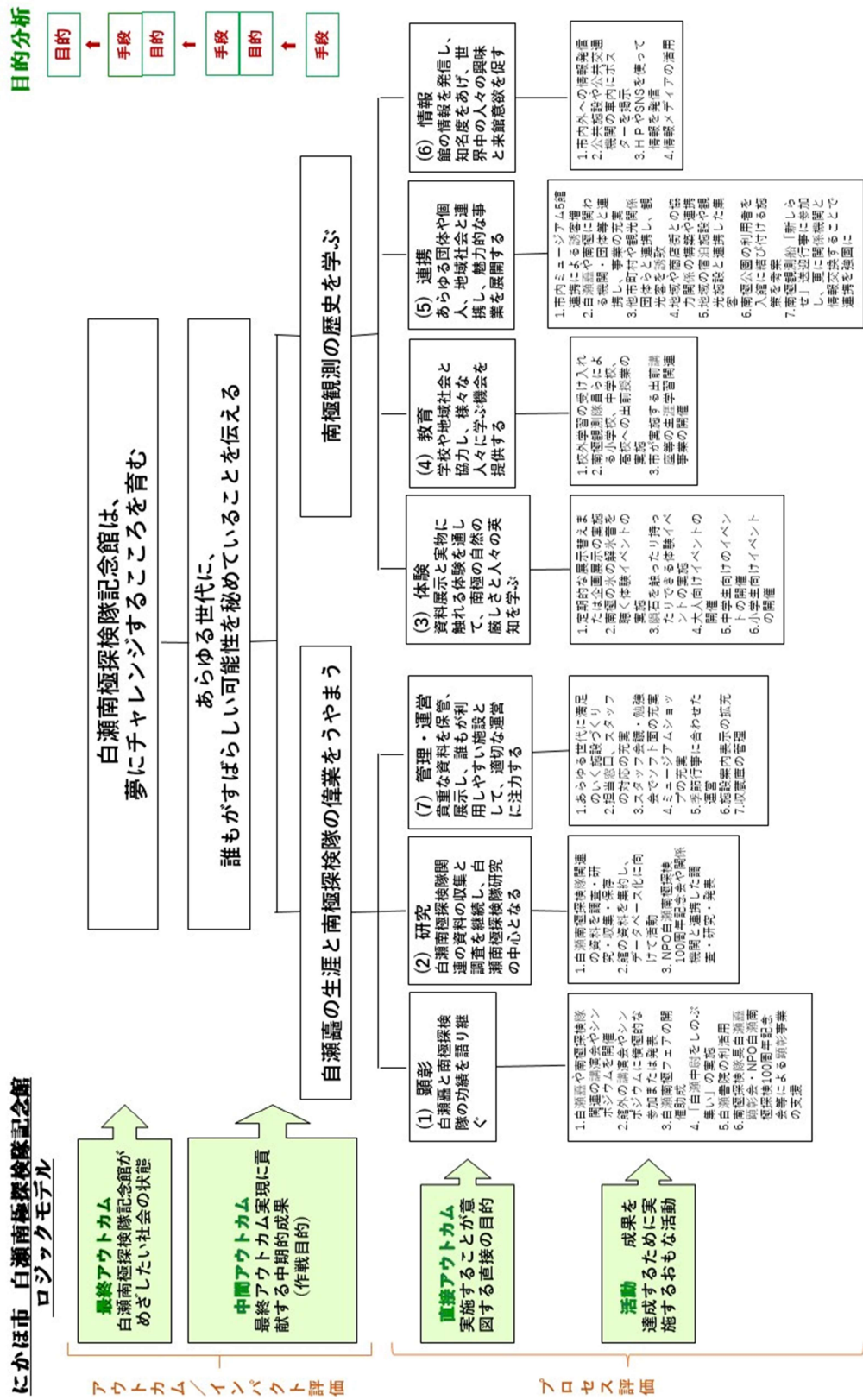
6. 使命

白瀬南極探検隊記念館は、
白瀬矗の生涯と南極探検隊の偉業をうやまい、南極観測の歴史を学ぶことによっ
て、あらゆる世代に、だれもがすばらしい可能性を秘めていることを伝え、
夢にチャレンジする心を育みます。

7. 目標

- (1) 顕彰 …… 白瀬矗と南極探検隊の功績を語り継ぐことによって、だれもがすばらしい可能性を秘めていることを伝えます。
- (2) 研究 …… 白瀬南極探検隊関連の資料の収集と調査を継続し、白瀬南極探検隊研究の中心となります。
- (3) 体験 …… 貴重な資料展示と、実物に触れるという体験をとおして、南極の自然の厳しさと人々の英知を学びます。
- (4) 教育 …… 学校や地域社会と協力し、様々な人々に学ぶ機会を提供します。
- (5) 連携 …… あらゆる団体や個人、地域社会と連携し、さらに魅力的な事業展開をします。
- (6) 情報 …… 白瀬南極探検隊記念館情報を発信することにより知名度をあげ、世界中の人々の興味と来館意欲を促します。
- (7) 管理・運営 …… 貴重な資料を保管して展示し、だれもが利用しやすい施設として適切な運営に注力します。

8. ロジックモデル



9. 総合評価

成果

- 年間の入館者数は 11,508 人で、新型コロナウイルスによる臨時休館（約 1 か月間）により前年度比 6.0%減少したものの、臨時休館期間の減少を除けばほぼ前年度並みとなった。
- 計画した主要事業をほぼ予定どおり実施し、参加者数や参加者満足度の水準は高かった。
- 新たな取り組みとしては、平成 30 年 2 月ににかほ市と包括連携協定を締結した国立極地研究所との連携事業を実施した。その結果、首都圏での PR の機会を得るといった成果があった。
- 資料の調査・研究では、企画展「昭和の白瀬南極探検」に関わる資料の調査が進んだ。
- 施設管理については、事故の発生もなくお客様を迎えることができ、来館者満足度も高い評価を得た。

課題

- 館蔵資料のデータベース化はほとんど進まなかった。
- 校外学習の受け入れが低調であり、新規に来館する学校が少なかった。

今後の方策

- 国内唯一の白瀬臺に関する博物館として、引き続き研究・顕彰事業を実施し、広報活動の充実を図る。
- 館蔵資料のデータベース化を市内博物館、関係部署等と連携を取り進めるべきで、将来的にはデジタルアーカイブとして広く公開する態勢を整える必要がある。
- これまでの県内外の学校宛でのダイレクトメール発送を引き続き行う一方で、少子化の下でも来館学校数を確保するための特色のある PR とメニューの提示が必要である。
- 市との連携協定を結んだ企業、学校等との連携事業の可能性を積極的に検討する必要がある。
- 施設の適正な運営管理及び来館者対応の向上に努め、入館者数増加及び満足度向上を図る。
- 新型コロナウイルス等の感染症対策を強化し、入館者及び職員の安全と安心確保を図る。

10. 評価表

・目標1 顕彰・・・白瀬矗と南極探検隊の功績を語り継ぐことによって、だれもがすばらしい可能性を秘めていることを伝えます。									
事業（事業戦略）		評価指標		H30年度 年間 実績	R元年度 年間 目標値	R元年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	白瀬矗や南極探検隊関連の講演会やシンポジウムの開催	1	開催数	4	4	3	P1	C	＊白瀬矗の功績について学習し、情報交換する事業で、研究者等による最新の研究成果を学ぶ機会である。 ＊昨年度並みを目標としたが、回数・人数とも目標を達成できなかった。また、イベント時のアンケートを実施することもできなかった。
		2	来場者数	203	200	125	P1	C	
		3	来場者満足度	61.6%	100.0%	ND	P2	－	
2	館外の講演会やシンポジウムへの積極的な参加または発表	1	参加回数	2	2	4	P1	A	＊白瀬矗や南極について館外での情報収集を積極的に行い、一方で情報を発表することで理解を深める。
		2	うち発表回数	1	2	4	P1	A	
3	白瀬南極フェアの開催助成	1	当日入館者数	146	300	406	P1	A	＊白瀬・南極フェアへの参加は、通常施設に入館する機会がない市民が、白瀬について学び白瀬記念館入館につながる機会である。
		2	参加者数	2,300	2,500	2,700	P1	A	
		3	白瀬矗・南極への関心の高まり	39.8%	40.0%	41.9%	C	A	
4	「白瀬中尉をしのぶ集い」実施	1	雪中行進参加者数	450	450	450	P1	A	＊事業開催日は白瀬隊が大和雪原に到達した日であり、毎年継続して開催すべき行事である。 ＊1/28実施。今回は会場の都合で参加対象者（学年）を限定したため目標未達となった
		2	講演会聴講者数	450	400	300	P1	C	
5	白瀬書院の利活用	1	利用回数	4	4	2	P1	D	＊書院は白瀬矗の往時の生活ぶりを実感できる場所で、白瀬を学ぶ上で活用すべき施設である。
		2	利用者数	157	200	161	P1	B	
		3	利用者満足度	81.6%	100.0%	90.8%	P2	－	
6	南極探検隊長白瀬矗顕彰会・NPO白瀬南極探検100周年記念会等による顕彰事業の支援	1	共催件数	1	1	2	P1	A	＊白瀬顕彰に関する連携事業は参加対象を広げるために必要な事業である。
		2	後援件数	2	2	2	P1	A	
目標1	成果	・計画した事業を予定どおり実施し、回数、参加者数ともほぼ目標を達成した。 ・実行委員会、NPO等関連団体との事業についても、計画どおり事業を実施し、一定の成果を上げた。							
	課題	・一部の事業でアンケートが行われず、参加者の満足度の把握が困難な事業があった。 ・白瀬書院の活用が既存事業にとどまり、新規事業につながらなかった。							
	今後の方策	・記念館が主催する白瀬矗顕彰事業は、一般市民をはじめ、より幅広い層の人が参加しやすいように内容の間口を広げハードルを下げる工夫が必要である。一方で、各種シンポジウムやNPO等関係団体との事業は、内容や視点の新鮮さに注目するなど、事業の対象による事業展開の特色を明確にする必要がある。 ・事業のうち、「白瀬・南極フェア」や「白瀬中尉をしのぶ集い」といった恒例事業では、基本姿勢は保ちつつも、時世に合った特色のあるテーマを持つことが必要である。							

・目標2 研究・・・白瀬南極探検隊関連の資料の収集と調査を継続し、白瀬南極探検隊研究の中心となります。

事業（事業戦略）		評価指標		H30年度 年間 実績	R元年度 年間 目標値	R元年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	白瀬南極探検隊関連資料を の調査・研究・収集・保存	1	白瀬隊・南極観測 に関する資料調査 の実施件数	0	2	4	C	A	*白瀬隊に関する資料収集・調査は、資料 の散逸を防ぐためにも必要な事業であり、 良好な資料保存の環境確保が必要である。
		2	収蔵庫の管理に関 する総合判断	4.2	5.0	4.2	C	B	
2	館蔵資料の集約、データ ベース化	1	データベース化進 捗率	55.0%	60.0%	55.0%	C	E	*資料のアーカイブ作成を目指すうえで データベース化は必須であるため進捗を 評価する。
3	NPO白瀬南極探検100周年記 念会や関係機関との連携、 調査・研究・発表	1	NPOとの調査・研 究・発表・件数	3	3	5	P1	A	*記念館事業及び白瀬研究の幅を広げるた めに関係団体との連携が必要である。
		2	他機関と連携して 行なった調査・研 究・発表件数	2	2	3	P1	A	
目標 2	成果	・企画展に関するテーマの資料研究が進んだ。							
	課題	・館蔵資料の確認や整理作業が中心で、人的な問題もありデータベース化の作業は進んでいない。							
	今後の方策	・職員数が限られる中で関係資料の調査・保存・研究の充実を図る方法の検討が必要であり、NPOへの委託や協働による事業を検討する必要がある。 ・資料のデジタルアーカイブ化は、文化財保護や図書館、公文書保護と連携しながら計画を進める必要がある。							

・目標3 体験・・・貴重な資料展示と、本物に触れるという体験をととして、南極の自然の厳しさと人々の英知を学びます。									
事業（事業戦略）		評価指標		H30年度 年間 実績	R元年度 年間 目標値	R元年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	定期的な展示替えまたは企画展示の実施	1	展示更新回数	2	2	3	P1	A	＊定期的な展示や企画展の開催は、白瀬や南極に関する情報や研究成果を公開する重要な機会である。 来館者のリピーター確保の面からも展示の質・量両面から評価する。
		2	来館者満足度	57.1%	100.0%	未実施	P2	－	
2	南極の氷の解氷音を聴く体験イベントの実施	1	実施回数	638	650	585	P1	B	＊体験型のイベントは入館者の幅を広げるために必要な事業であり、実施の状況と参加者満足度の両面から評価する。 ＊氷の解氷音を聞く体験は、10月以降氷の在庫不足により回数を制限したため目標未達だった。
		2	参加人数	5,695	5,700	4,402	P1	C	
		3	来館者満足度	78.2%	100.0%	78.7%	P2	C	
3	隕石に触ったり持ったりできる体験イベントの実施	1	実施回数	821	850	803	P1	B	＊体験型のイベントは入館者の幅を広げるために必要な事業であり、実施の状況と参加者満足度の両面から評価する。
		2	参加人数	6,456	6,500	5,632	P1	B	
		3	来館者満足度	74.1%	100.0%	71.3%	P2	C	
4	大人向けイベントの開催	1	開催回数	2	2	1	P1	D	＊対象の年齢層を絞ったイベントを実施することにより内容の充実を図ることが可能となる。 ＊成人向けイベントして「南極シェフによる料理教室・トーク」を実施したところ、参加者の満足度は高かったもの、回数・参加者数とも目標に達しなかった。
		2	参加人数	59	50	20	P2	D	
		3	参加者満足度	N. D.	100.0%	90.0%	P2	B	
5	中学生向けイベントの開催	1	開催回数	3	2	3	P1	A	＊対象の年齢層を絞ったイベントを実施することにより内容の充実を図ることが可能となり、特に中学生は職業体験としての意味でも重要である。
		2	参加者数	9	6	17	P1	A	
		3	参加者満足度	100.0%	100.0%	100.0%	P2	A	
6	小学生向けイベントの開催	1	開催回数	0	1	1	P1	A	＊対象の年齢層を絞ったイベントを実施することにより内容の充実を図ることが可能となり、特に小学生は白瀬蠡学習を通して教育面及び人材育成面でも重要である。 ＊参加者に対するアンケートを実施できなかった。
		2	参加者数	0	50	400	P1	A	
		3	参加者満足度	N. D.	100.0%	ND	P2	－	
目標3	成果	・年間を通して企画展示を開催した。その際に、解説パネルのみならず、記念館所有または寄託・借用した資料を展示し、来館者に鑑賞する機会を提供した。 ・来館者には南極の氷及び隕石に直接触れる機会を提供した。 ・初めて出展した「極地研一般開放」イベントで、小学生を中心に体験コーナー（缶バッジづくり）を設け、白瀬に接する機会を提供した。							
	課題	・大人向けイベントということで「南極シェフによる料理教室・トーク」を実施し、市内外からの参加者があった。対象者層を広げるという面では成果があったものの、一般市民にアピールが欠けていたという結果だったので、今後はテーマの持ち方の検討が必要である。							
	今後の方策	・児童・生徒をはじめ、大人に対しても、より白瀬蠡や南極について興味を持ってもらうため、何らかの形で体験を加味した展示やイベントの運営を検討する。							

・目標4 教育・・・学校や地域社会と協力し、さまざまな人々に学ぶ機会を提供します。								
事業（事業戦略）		評価指標	H30年度 年間 実績	R元年度 年間 目標値	R元年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	校外学習の受け入れ	1 受け入れ 団体数	27	27	17	P1	C	*小・中学生、高校、大学等の校外学習受け入れは、入館者の増加に大きく寄与するほか、市内外へのPR効果も期待できる。 *校外学習、遠足で来館する学校がある程度固定化されており、新規来館が少なかったことから目標未達となった。
		2 受け入れ人数	749	750	415	P1	D	
2	南極観測隊員らによる小学校、中学校、高校への出前授業の実施	1 回数	2	3	2	P1	C	*南極観測隊による学校への出前授業は他の地域では見られないにかほ市独自の事業であり、南極を切り口として様々な分野について学習する機会となる。 *中学校のみの出前にとどまったため目標未達となった。
		2 対象人数	130	200	191	P1	B	
3	市が実施する出前講座等の生涯学習関連事業の開催	1 実施回数	7	7	2	P1	E	*市内の町内会、職場等へ記念館職員が出向いて講演を行う出前講座は、記念館の研究成果を市民に伝えとともに、市民の声を聴く貴重な機会である。 *住民側の新味が失われたためか。回数が目標未達となり、前年を下回った。
		2 参加人数	276	250	175	P1	C	
		3 参加者満足度	77.9%	100.0%	ND	P2	－	
目標4	成果	・児童生徒を対象とした出前授業については、極地研との連携事業や「白瀬中尉をしのぶ集い」と併せて全校区で実施した。						
	課題	・市内外の学校からの校外学習は、県内及び近県の学校にDMによる案内を送っているものの、新規に来館する学校が少ない。少子化による学校数減少の下でも記念館の特色を打ち出し、興味を持ってもらう取り組みが必要である。 ・市内の各種団体に出向く「出前講座」に関しては、依頼件数が前年を下回った。今後、テーマの工夫やPRが。						
	今後の方策	・校外学習として市内の他施設との連携し、ルートとして売り込み、PRを図る。						

・目標5 連携・・・あらゆる団体や個人、地域社会と連携し、さらに魅力的な事業展開をします。									
事業（事業戦略）		評価指標		H30年度 年間 実績	R元年度 年間 目標値	R元年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	市内ミュージアム5館連携 による誘客	1	連携事業数	1	2	2	P1	A	*他施設との連携は誘客の面で効果が望まれるのみならず、各施設の質の向上につながる事が期待される。
		2	連携事業期間の来館者数	1,858	2,000	1,798	P1	B	
2	白瀬蘆や南極に関わる機関・団体等との連携による事業の充実	1	連携事業数	3	3	5	P1	A	*関係機関・団体との連携は記念館事業の対象者及び事業内容の拡大に必要である。
		2	参加者数	150	100	664	P1	A	
3	他市町村や観光関係団体らとの連携による観光客の誘致	1	来館した旅行会社へのアプローチ数	10	10	0	P1	E	*秋田県由利地域振興局を核とした由利地域観光推進機構及び同観光振興会と連携することにより市外・県外への効率的なPRが可能となる。 *コロナウイルスの影響でエージェントの訪問事業が中止された。
		2	旅行関連会社への訪問・商談回数	5	5	3	P1	C	
4	地域や商店街との協力関係の構築や連携	1	協力のための働きかけ数	3	3	3	P1	A	*各種イベント開催に当たっては地元地域の協力が必須で、一方地域貢献の期待に応えるためにも連携が必要である。
		2	連携・協力した事業実施数	4	3	4	P1	A	
5	地域の宿泊施設や観光施設との連携	1	集客誘引数	235	250	174	P1	C	*地域の観光資源の一つとして市外からの誘客について各種施設との連携が必要なことから評価する。 *3月、市内宿泊施設等（16施設）への営業活動（ポスター・割引券等配布）を実施した。
		2	集客協力施設数	7	8	5	P1	C	
6	南極公園の利用者を入館に結び付ける施策の考案	1	考案数	2	2	2	P1	A	*近隣施設の利用者を入館に結び付けるための対策が必要である。
7	南極観測船「しらせ」送迎行事等への参加、関係機関と情報交換による連携強化	1	行事参加回数	5	5	5	P1	A	*船舶「しらせ」に関わる方々と構築する関係を維持することは記念館事業の充実に生かすため必要な事業である。
		2	関係機関訪問数	10	10	10	P1	A	
目標5	成果	・市内博物館施設との「にかほミュージアム連携協議会」の事業や国立極地研究所及び南極関係団体等と連携し、入館者・参加者増加に結び付く事業を実施した。							
	課題	・他県の観光エージェント訪問等件数がコロナウイルスの影響もあり目標に至らなかった。 ・地域の宿泊施設・観光施設の結びつきを強めることができなかった。 ・近隣の公園利用者への入館の呼びかけはイベント時など期間限定にとどまっている。							
	今後の方策	・引き続き観光団体やエージェントとの関係を維持し、情報交換の機会を確保する。 ・市内宿泊、観光施設へ出向き、情報交換を兼ねて積極的にPRを行う。 ・にかほミュージアム連携協議会や南極関係団体等との連携を強固にし、お互いの質の向上につながるような事業を実施する。							

・目標6 情報・・・白瀬南極探検隊記念館情報を発信することにより、知名度を上げ、世界中の人々の興味と来館意欲を促します。									
事業（事業戦略）		評価指標		H30年度 年間 実績	R元年度 年間 目標値	R元年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	市内外への情報発信	1	観光宣伝媒体の登 載（放映）数	33	30	37	P1	A	*より多くの人に記念館の存在、事業やイ ベントの告知、研究成果の報告を伝えるこ とが必要のため評価する。 *イベントポスター（白瀬・南極フェア） の発送は、送付先の見直し及び枚数の都合 により数量を絞った。
		2	パンフレット・D M送付数	903	900	893	P1	B	
		3	パンフレット配布 枚数	1,400	1,000	1,320	P1	A	
		4	イベントポスター 掲示箇所数	274	270	204	P1	C	
		5	施設案内ポスター 掲示箇所数	0	2	199	P1	A	
		6	情報媒体を見て来 館した来館者数	34.7%	33.3%	37.6%	P2	A	
2	公共施設や公共交通機関車 内へのポスター掲示	1	公共施設ポスター 掲示数	0	1	140	P1	A	*市内、県内を中心により多くの人に記念 会の存在をアピールし新規の来館につなげ る必要があるため評価する。
		2	公共交通機関車内 ポスター掲示数	0	1	0	P1	E	
3	HPやSNSを活用した情 報発信	1	HP更新数	24	24	21	P1	B	*ホームページに基本情報を掲載すると ともに、関係者に対してタイムリーに話題を 届けるためSNSの活用が不可欠である。
		2	SNS情報 発信数	95	55	99	P1	A	
		3	FaceBook「いい ね」獲得数	5,530	6,000	5,905	P1	B	
4	情報メディアの活用	1	回数（白瀬轟＋南 極探検隊＋記念館 ＋イベント）	27	20	37	P1	A	*有料広告と併せて積極的にマスコミ取材 への協力により露出を増やすことが、記念 館に対する関心を引き起こすことにつな がる。
		2	イベント事前情報 掲載数	20	20	24	P1	A	
目標 6	成果	・記念館のポスターを200枚印刷し県内外の関係施設に配布したほか、情報メディア及びSNSを積極的に活用し、目標を達成した。							
	課題	・イベントポスターは送付先及び枚数の見直しを行ったため目標未達となった。 ・交通機関へのポスター貼り付けは実施できなかった。費用や効果を考量し必要性を検討する必要がある。							
	今後の方策	・現在の水準を下回ることなく、適切なタイミングに適切な広報活動を行う。 ・ネット動画等、新規の分野での広報活動を検討する。							

・目標7 管理・運営・・・貴重な資料を保管して展示し、だれもが利用しやすい施設として、適切な運営に注力します。								
事業（事業戦略）		評価指標	H30年度 年間 実績	R元年度 年間 目標値	R元年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	あらゆる世代に満足のいく施設づくり	1 館全体の満足度	87.9%	100.0%	84.1%	P2	B	＊施設全体の満足度を高めることはリピーター確保につながり、客観的な数値である入館者数と併せて評価する。
		2 入館者数	12,238	12,581	11,508	P1	B	
2	担当窓口、スタッフの対応の充実	1 応対向上の心がけ「スマイル＋ひとことアップ」	7.2	7.5	6.9	C	B	＊スタッフによる応対への満足度を高めることは再来館につながるとともに口コミ等による情報の拡散につながる。
		2 受付・展示説明満足度	92.6%	100.0%	91.6%	P2	B	
3	スタッフ会議・勉強会でソフト面の充実を図る。	1 スタッフ会議回数	2	2	2	P1	A	＊スタッフの育成は記念館の質及び来館者満足度の向上につながる。
		2 研修会・勉強会開催回数	3	2	2	P1	A	
4	ミュージアムショップの充実	1 商品売上収入額（千円）	961	1,014	822	P1	B	＊ミュージアムショップは記念館のイメージに関わり、満足度に付加価値を与える施設であり充実が求められている。 ＊一部の人気商品が業者側の都合により入荷しなかったことにより、売り上げが前年を下回り目標未達となった。
		2 来館者満足度	N. D.	100.0%	6.4%	P2	E	
5	季節行事に合わせた運営	1 季節に合った館内展示替え回数	0	1	0	P1	E	＊館内に季節の変化によりメリハリをもたらし、リピーター確保につながると考えられる。
		2 季節行事等のイベント回数	0	1	1	P1	A	
6	施設案内表示の拡充	1 施設内表示の新設・更新数	0	2	1	P1	D	＊館内の動線を確保することは来館者の理解の向上につながるとともに、トイレ等付帯施設の表示を明確にすることは満足度向上につながる。
		2 施設外案内表示の設置数・更新数	2	2	3	P1	A	
		3 来館者満足度	87.9%	100.0%	84.1%	P2	B	
7	収蔵庫の管理	1 目標設定による進捗率（マトリクス）	4.2	5.0	4.2	C	B	＊施設の物理的な制約の中で、資料を適切に管理するよう努めることが必要である。
目標7	成果	・スタッフの「スマイル＋声かけアップ」の実施や研修の実施により、施設全般及びスタッフの応対に対する入館者の満足度は、年間を通して一定の評価を得た。						
	課題	・年間入館者数は、新型コロナウイルスの影響により2020年2月29日から1か月間臨時休館したことから、前年度を下回り、目標未達となった。 ・ミュージアムショップの売り上げは、商品入荷（委託業者側）の問題やコロナ対策による臨時休館の影響で目標未達となった。						
	今後の方策	・入館者満足度向上に向けたスタッフの取り組みを引き続き実施する。一方で、アンケートを定期的に実施することで、取り組みの成果を随時チェックするよう努める。						

1 1. 添付資料

(1) 来館者アンケートの結果

◆期 間：令和元年 7 月 6 日から 10 月 27 日の間（延べ 32 日間）

◆回答数：202 人 注：表中の％は、回答数に対する比率である。

1. 性別

項 目	人数	%	コメント欄
男	131	64.9	
女	67	33.2	

2. 年齢

項 目	人数	%	コメント欄
12 歳以下	6	3.0	・40～60 歳代を中心に、あらゆる世代が入館している。 ・12～17 歳（小学高学年から高校生）の入館割合が低い。
12～17 歳	2	1.0	
18～29 歳	21	10.4	
30 代	32	15.8	
40 代	46	22.8	
50 代	36	17.8	
60 代	43	21.3	
70 代	13	6.4	
80 代以上	1	0.5	

3. お住まい

項 目	人数	%	コメント欄
にかほ市内	6	3.0	・市内、(隣接する) 由利本荘市からの来館者は全体の 1 割あまり。 ・県外からの入館者は合計 63.4%で、首都圏をはじめ全国各地から来館している。
由利本荘市	14	6.9	
秋田市	21	10.4	
秋田県内（上記以外）	29	14.4	
山形県内	22	10.9	
その他県外	106	52.5	
※その他の内訳(都道府県名)：東京 11、岩手 9、埼玉・神奈川・新潟 7、宮城・福島 6、北海道・千葉 5、群馬 4、青森・茨城・静岡・愛知・岐阜・大阪 3、栃木・長野・奈良 2、滋賀・兵庫・岡山・鳥取・福岡・宮崎 1・不明 9			

4. 白瀬南極探検隊記念館にご来館いただいた回数を教えてください

項 目	人数	%	コメント欄
今日初めて	160	79.2	・初めての来館が約 8 割と多い。
2 回目	22	10.9	
3～5 回	13	6.4	
5～10 回	5	2.5	
10 回以上	1	0.5	

5. 白瀬南極探検隊記念館を何でお知りになりましたか？（複数回答）

項 目	人数	%	コメント欄
以前から知っていた	82	40.6	・ホームページで知った人が増加している。
人から聞いて（口コミ）	18	8.9	
新聞	2	1.0	
本・雑誌	19	9.4	
広報紙	7	3.5	
看板・ポスター	14	6.9	
ホームページ	30	14.9	
SNS（フェイスブック、ツイッターなど）	4	2.0	

宿泊先	0	0.0	
観光施設	8	4.0	
通りすがり	30	14.9	
その他	14	6.9	

6. 今日は、館内で、どのくらいの時間を過ごされましたか？

項 目	人数	%	コメント欄
30 分未満	20	9.9	
30 分～1 時間未満	114	56.4	
1 時間～2 時間未満	56	27.7	
2 時間以上	5	2.5	

7. 館内で良かった展示・コーナーを教えてください。（複数回答）

項 目	人数	%	コメント欄
白瀬巖に関する展示	105	52.0	・白瀬巖の展示、オーロラドーム、雪上車は半数の人が良かったと答えている。 ・企画展は、それぞれの開催期間の都合もあるが、総じて評価が低い。
白瀬南極探検隊に関する展示	91	45.0	
開南丸など船に関する展示	66	32.7	
南極観測に関する展示	54	26.7	
雪上車・南極点到達の展示	99	49.0	
オーロラドーム	101	50.0	
いん石の展示	85	42.1	
昭和基地ライブ映像	22	10.9	
企画展（「南極点到達 50 周年」展）	10	5.0	
企画展（「阿部雅龍」展）	5	2.5	
企画展（「昭和の白瀬南極探検」展）	6	3.0	
企画展（「武田輝太郎」展）	4	2.0	
ミュージアムショップコーナー	13	6.4	
その他	4	3.0	

8. 体験コーナーの満足度をお聞かせください

①南極の氷

項 目	人数	%	コメント欄
満足	120	59.4	・「満足」と「やや満足」と答えた人の合計（満足度）は 78.7% で昨年度より上昇した。
やや満足	39	19.3	
普通	29	14.4	
やや不満	0	0.0	
不満	0	0.0	
体験しなかった	3	1.5	

②いん石

項 目	人数	%	コメント欄
満足	109	54.0	・「満足」と「やや満足」と答えた人の合計（満足度）は 71.3% で昨年度より若干下落した。
やや満足	35	17.3	
普通	36	17.8	
やや不満	0	0.0	
不満	0	0.0	
体験しなかった	6	3.0	

9. 施設の全体的な満足度をお聞かせください。（料金や期待に対しての満足感）

項 目	人数	%	コメント欄
満足	119	58.9	・「満足」と「やや満足」と答えた人の合計（満足度）は 84.1% で昨年度より若干下落した。
やや満足	51	25.2	
ふつう	28	13.9	
やや不満	0	0.0	
不満	0	0.0	

10. 受付・案内スタッフの対応について感想をお聞かせください

項 目	人数	%	コメント欄
とてもよかった	119	58.9	・「満足」と「やや満足」と答えた人の合計（満足度）は 91.6%で、満足度は高い。
よかった	66	32.7	
ふつう	13	6.4	
あまりよくなかった	0	0.0	
よくなかった	0	0.0	

11. ご意見・ご感想・ご要望など、自由にお書きください
(省略)

白瀬南極探検隊記念館 自己評価報告書
〈令和元（2019）年度〉

内容についてのお問合せ先

〒018-0302 秋田県にかほ市黒川字岩潟 15-3

TEL 0184-38-3765

Mail shirase@city.nikaho.lg.jp